



ミニシンポジウム

水俣病の経験を未来につなぐ

— 公式確認70年・水俣からの発信 —

2026

12/13 日

会場 国立水俣病情報センター・講堂

(熊本県水俣市明神町 55-10)

9:30 ~ 12:00 (9:00 開場)

定員 80名 参加費 無料

公害資料館ネットワークは、公害を伝える取組を学び、各地の公害地域再生の取組を共有することで、公害教育と公害資料館の可能性について議論する公害資料館連携フォーラムを 2013 年から開催してきました。

本シンポジウムは、そうした活動を踏まえ、水俣病公式確認 70 年の節目に、水俣病の経験を「困難な過去の継承」という観点から再整理し、広く共有することを通じて、次世代への継承に寄与することをめざし開催します。

また水俣病を含め戦後日本の公害の経験を捉え直し、今年発生から 15 年を迎えた東日本大震災・原子力災害などとも比較しながら「困難な過去」を伝える意義について考えます。

9:30 ~ 開会

9:35 ~ 11:15 報告(各20分) ※演題は全て仮

● 「公害経験の継承と百間排水口問題」 林美帆 (岡山理科大学、公害資料館ネットワーク)

● 「つなぎ美術館との関わりから」 小田原のどか (横浜国立大学、彫刻家・評論家)

● 「原発事故被災地の歴史資料の保存・活用」 西村慎太郎 (国文学研究資料館)

● 「水俣・百間排水口の保存をめぐる：胎児性水俣病患者の求めるもの」

加藤タケ子 (一般社団法人きぼう・未来・水俣、水俣の歴史的遺構(跡)を残す会)

● 「『公害遺跡』の可能性」 矢野治世美 (熊本学園大学)

11:15 ~ 11:55 フロアディスカッション(参加者同士の交流・質疑応答)

12:00 閉会

お申し込みはコチラから【締切 12/7(月)】



※本事業は水俣病公式確認 70 年
地域提案事業補助金を活用して実施しています。

関連企画:NIMD Forum 2026—公式確認70年目の水俣病のアーカイブズ—

本シンポジウムに先立ち、2026 年 12 月 11-12 日に同会場で水俣病のアーカイブズに関する NIMD Forum 2026 (主催: 国立水俣病総合研究センター) が開催されます。こちらのフォーラムに参加希望の方は、別途参加申し込みが必要です。主催団体のお知らせをご確認ください。(国立水俣病総合研究センター <https://nimd.env.go.jp/>)

主 催: 公害資料館ネットワーク 後 援: 国立水俣病総合研究センター
公害資料館ネットワーク事務局: 岡山市北区理大町 1-1 岡山理科大学 林美帆研究室 内
電話: 086-256-9568 (担当: 林美帆) メールアドレス: kougaisiryoukan@gmail.com